生徒の皆さんへ

生徒の皆さん、元気に過ごしていますか？校長の野口です。

まず、新型コロナウイルス感染症に感染され亡くなられ方々のご冥福をお祈りするとともに、現在もなお治療を受けておられる方々にお見舞い申し上げます。
この病気の報道が流れ始めた 1 月 22 日における国内の感染者は 1 名でした。それから、たった 2 ヶ月半で国内の感染者数は 7 千人を超え、世界では 180 万人以上が感染し、11 万人以上の死者が出ています。

幸い布施高校の生徒や教職員に被害は出ていませんが、油断することなく、健康を保持し、感染を拡大させないよう、規律ある行動を持続させましょう。

人類は長い歴史の中で、三つの敵と闘ってきました。一つは天災や飢饉、二つは戦争や犯罪、そして、三つは疫病や病気です。
古くはペスト（14 世紀の大流行では死者約 1 億人)、200 年前にはコレラ（19 世紀の大流行では死者 100 万人以上)、100 年前にはスペイン風邪（感染者約 6 億人、死者約 5 千万人）がいわゆるパンデミックとなりました。　※人数には諸説あり
歴史の大きな転換点の背景には、常に世界規模のこのようなパンデミック、或いは気候変動や大恐慌などがあったと言われています。この 80 年間を振り返っても、私たちは第二次世界大戦、阪神・淡路大震災や東日本大震災、また、アメリカでの同時多発テロやリーマンショックなどを経験し、その後の価値観や行動に大きな影響を与えられてきました。

私自身、37 年間の教員生活の中で、これほど長期間にわたる休業を経験したことはありませんでしたが、さらに過去を顧みた時、先人たちは、きっと様々な苦難を乗り越えられてこられたのでしょう。

誰もいない教室やグランド。本来なら今頃、校内のあちらこちらで、生徒の笑い声や楽器の音が聞こえ、皆さんの笑顔や部活動に励む姿が見られたはずなのに。生徒のいない学校がどれほど空虚なものなのかを私たちは、いま、身にしみて感じています。

そして、皆さんも、学校で勉強や部活動ができないことを、さぞかし辛く感じていることでしょうね。3 年生は受験に向け心配が募っているでしょう。2 年生は上級生として部活動や行事に頑張ろうと思っていたことでしょう。そして、新入生の皆さん、合格おめでとうございます。高校での生活を満喫しようと期待していたでしょうが、未だ入学式も迎えることができず、さぞかし悔しい思いをされていることでしょう。

しかし、こんなに辛い時だからこそ、何かのせいにすることなく、前向きに過ごしてもらいたいと願っています。生徒の皆さんに望むこととして、まずはこの状況にかまけることなく、しっかりと学習してください。定期的に教材を配信しますので、真摯に取り組みましょう。予習をする時間も十分あると思いますので、何が分からないのかを認識し、新学期には先生に質問して疑問を解消してください。

次に、是非意識しておいて欲しいのは、勉強以外のことにも取り組む、ということです。たとえば、読書、芸術鑑賞、運動や体操、趣味や娯楽など。できれば、普段は接することのない分野に挑戦してみてはどうでしょう。平素は読まない歴史小説を読んだり、クラシック音楽を聞いてみたり、昼食を作るとか、花を育てるのはどうでしょう。

少し話は飛びますが、ドイツのモニカ・グリュッタース文化相は3月11日の声明の中で、「文化は良い時にのみ与えられる贅沢品ではありません。アーティストは必要不可欠であるだけでなく、生命維持に必要なのだ」と訴え、500億ユーロ（約6兆円）規模のアーティストへの支援策を表明しました。

私はこの文化相の考えに大いに共感します。生徒の皆さんに覚えておいていただきたいことがあります。いわゆる勉強は、入試を突破するためにも、生きるための知識としても、とても大切なもので、学生である限り、懸命に取り組むべきものです。しかし、人間をもっと深い部分から突き動かしているのは、感情や意思であり、それを培うのに文化や芸術は必要不可欠なものなのです。

「ピンチはチャンス」です。この機会に様々な価値に触れ、生き方を考え、教科書と教科書以外の知識を蓄えてください。

朝の来ない夜はありません。今は本当に辛いと思いますが、何とか耐え抜いて、新学期には一緒に学校生活を楽しみましょう。

常々皆さんに言っていますが、一番大事なのは命です。自分の命、他人の命を守るため、最大限の努力をしてください。

新学期が始まるまで、皆さんが健康かつ有意義に過ごされることを期待しています。

令和2年4月13日

大阪府立布施高等学校　校長　野口 幸一